

長岡紫

楽聖

「もつと光を」
そう言って彼は
この世を去った

死の二十五年も前に遺言を書き
聞こえない境遇にあっても
耳を澄ませ
音を掬った

真摯に向き合う今
二百五十年後の私達に
深海から光が届き

ひかりとひびきが
底力になって
人は済わられていく

「こちらは禍の中です。
でも、本能があなたを求めます」